

北海道標茶高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 3つの「いのち」を巡る系列での学びを通して望ましい価値観を身につけさせる。 (2) 地域からの要望を生徒自身が体現できる能力を身に付けさせる	(1) 様々な授業を通して「いのち」について、共有しながら考えることができた。 (2) できる範囲で地域の要望に応えることができた。	(1) 引き続き「いのち」の共有を進めていきたい。 (2) 広範囲の要望に対応できるような柔軟さを検討していきたい。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 国際交流、交換留学活動の推進と共に国際意識を育み視野を広くした教育を展開する。	(1) クルーズ船の寄港に合わせて、4年ぶりに実施することができた。	(1) 地域の魅力発信を含めた、国際交流を推進していきたい。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 農場HACCPの継続と食の6次産業化プロデューサー認証を推進し、農業理解者を育てる。 (2) 品質管理の徹底、施設や設備の定期点検を行い食品加工品の維持管理に努める。	(1) 農場HACCPの審査や食の6次産業化プロデューサー認証により農業教育推進の糧となった。 (2) 工程管理の見直し等により、安全・安心な加工品づくりができた。	(1) PDCAサイクルを廻すことで更なる向上をしていきたい。 (2) より安心・安全な製品作りができる環境作りを推進していきたい。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 地域の環境に配慮した農業教育の推進を図り、地域が取り組む環境文化財産の継承に努める。 (2) 就業体験の取組を推進し、地域貢献できる人材を育てる。	(1) 地域環境を題材とした課題を生徒自ら見つけ出し、その対策について検討する力が付いてきている。 (2) インターンシップや地域との交流により、人材育成の意見交換ができた。	(1) 環境保全教育と地域活性化を同時に推進していく必要がある。 (2) 地域や生徒の目標に応じた産業との積極的な交流が必要になる。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 地域産業と自然環境の調和を追求し、循環型農業の推進を図る。	(1) 地域の基幹産業を持続させるためにもSDGsを意識した活動ができた。	(1) 更にSDGsを意識した活動の継続していく必要がある。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 地域の異校種交流を実施し、「食育」「農業」教育活動への意識高揚を図る。	(1) 地元小学校との「食育活動」を通して、生産活動の一端を担うことができた。	(1) 継続するための人材育成が急務である。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) 搾乳ロボット等の情報を積極的に活用し、スマート農業の推進とICTを活用できる環境作りを図る。	(1) 搾乳ロボットの活用により、乳牛の体質改善に寄与することができた。	(1) ICT活用ができる農場環境づくりが必要である。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 食に関する安全・安心に係わる技能と意識向上を図る。 (2) 安全教育を徹底し、応急手当、防犯・防災等に関する危険等発生時対処要領に関する校内研修を充実させる。	(1) HACCPの取り組みにより、原材料の生産から加工・流通まで一貫した安全の担保をしている。 (2) 防災と減災に向けた日々の点検を行い、意識の高揚に努めている。	(1) HACCPの継続と有効な活用 (2) 自ら判断できる減災教育の推進が必要である。	4